

保存

調査研究資料 №. 2

昭和33年職業訓練法の成立過程

昭和47年度

職業訓練大学校調査研究部

昭和33年職業訓練法の成立過程

目 次

| | |
|------------------------------------|----|
| 序 章 職業訓練制度の発端 | 1 |
| 戦前における技能者養成の問題 | |
| 第一節 職工教育の発端 | 1 |
| 文教政策上の技能者養成の試み | |
| 第二節 技能者養成を中核とする企業内教育の体系化 | 4 |
| 第三節 工場法の制定 | 7 |
| 労働保護政策の一環としての職工教育の試み | |
| 第四節 職業補導事業の発端 | 8 |
| 慈恵政策の一環としての技能者養成の試み | |
| 第五節 戦時体制下の技能者養成 | 9 |
| 軍需雇用政策の一環としての技能者養成の試み | |
| 第一章 職業訓練制度の発足 | 15 |
| 戦後の各種法令に基づく職業訓練 | |
| 第一節 終戦後における経済再建と職業訓練 | 15 |
| 第二節 徒弟制度に対する批判と技能者養成制度の再発足 | 16 |
| 第三節 失業対策と職業補導 | 20 |
| 第二章 職業訓練制度の質的転換 | 25 |
| 技能者養成と職業補導の連携 | |
| 第一節 朝鮮動乱による産業復興と職業訓練 | 25 |
| 第二節 技能者養成規程の改正 | 26 |
| 消極的労働者保護から積極的技能者養成へ | |
| 第三節 職業補導事業の変質 | 33 |
| 総合職業補導所の創設 | |
| 第四節 技能者養成と職業補導の連携 | 35 |
| 第三章 昭和33年職業訓練法制定への要請 | 40 |
| 各種団体による要望 | |
| 第一節 昭和30年代と職業訓練 | 40 |
| 第二節 労働省の「技能者養成制度改革要綱案」と各種審議会 | 41 |
| 第三節 大企業からの要望・要請 | 43 |

| | | |
|-------|-----------------------------------|-----|
| | 日経連・経団連を中心として | |
| 第 四 節 | 中小企業からの要望・要請 | 4 5 |
| | 日本商工会議所・全国共同技能者養成協議会を中心として | |
| 第 五 節 | 労働者側からの要望・要請 | 4 6 |
| 第 四 章 | 昭和 3 3 年職業訓練法の成立過程 I | 4 8 |
| | 臨時職業訓練制度審議会の設立と答申 | |
| 第 一 節 | 職業訓練審議室による「職業訓練に関する問題点のまとめ」 | 4 8 |
| 第 二 節 | 臨時職業訓練制度審議会の設置 | 5 0 |
| 第 三 節 | 労働省の「職業訓練に関する基本対策案」 | 5 1 |
| 第 四 節 | 「職業訓練制度の確立に関する答申」 | 5 4 |
| 第 五 章 | 昭和 3 3 年職業訓練法の成立過程 II | 5 7 |
| | 昭和 3 3 年職業訓練法の性格 | |
| 第 一 節 | 職業訓練法案要綱 | 5 7 |
| 第 二 節 | 職業訓練法案の修正 | 6 2 |
| 第 三 節 | 昭和 3 3 年職業訓練法の性格 | 6 4 |